教育のぼりべつ

令和３年
7月 1日
NO,30

発行；登別市教育委員会 TEL. 0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目 33 番地

『さけの稚魚放流体験』 地域学校協働本部事業

５月８日（土）登別中学校区地域学校協働本部主催による、自然ふれあい体験事業として、いぶり中央漁業協同組合登別さけ・ますふ化場の協力を得て、「さけの稚魚放流体験」が実施されました。当日は、登別小学校の児童１８名が参加しました。まず初めに、ふ化場で関係者からさけについての詳しい説明を受けた後、ふ化場の稚魚にえさを与える体験をしました。その後、登別川に移動し、昨年の１０月の採卵体験において受精させて育てたさけの稚魚を川に放流しました。子どもたちは、さけの生態はもとより、生命の大切さを学ぶよい機会となりました。

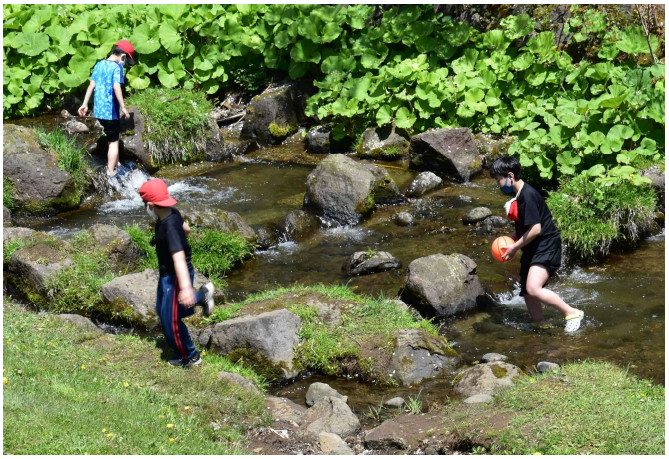
貴重な体験を通して地域の方々と子どもたちのふれあいの輪が広がる有意義な１日となりました。





「楽しい春の遠足」好天に恵まれ実施

５月１４日（金）若草小学校・鷲別小学校・幌別小学校の３校が「春の遠足」を実施しました。「亀田記念公園」には、若草小の４年生・鷲別小の３年生が来ていました。昨年は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、例年春に行われていた遠足は、夏から秋に延期となり実施されました。今年は、予定通り春に実施でき、子どもたちは、「遠足ができる喜び」を体いっぱいに感じながら、楽しんでいました。

教育行政執行方針 2021（要旨）

地域とともにある学校づくり

これまで、本市においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働して、将来を担う子どもたちの育成に努めてまいりました。今後においても更なるコーディネート機能の充実を図るとともに、学校を核とした多様な地域学校協働活動が展開されるよう努めます。ここでは、今年度重点的に進める要点について紹介します。

学校教育について

小中一貫教育

小中一貫教育基本方針を踏まえ、子どもたち一人一人の良さを大切にした指導を継続し、中１ギャップ問題の解消や未然防止に努めます。

確かな学力の向上

課題の見られる小学校算数科に焦点をあて、地域の方々の協力を得ながら「鬼っ子算数教室」を開催するとともにICTを活用した教材を提供するなど、学習習慣の確立に努めます。

英語教育

引き続き、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲が向上するように、小学校４年生全員に英検ジュニアを実施、英検３級を受験する市立中学校生徒への検定料の補助を実施するとともに、外国語指導助手を活用し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図るため、小学校の早い段階から英語に慣れる環境作りを進めます。



児童生徒の安全対策

新型コロナウイルスの感染予防対策として、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習や活動の内容を工夫しながら、可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動が継続されるよう支援していきます。

学校図書館の活用

新たにモデル事業として中学校にも学校司書を配置し、読書活動の推進や授業における支援を通した情報活用能力の育成などに努めます。

情報教育

ICTの活用については、「児童生徒一人一台の端末」を活用した授業を推進し、児童生徒の特性や学習進度等に応じて、きめ細やかな支援ができるよう、情報教育推進協議会と連携し、研究と実践を重ねていきます。また、授業改善と学びの充実の観点から、小学校算数科と中学校英語科において指導者用デジタル教科書を導入するとともに、国の「学習者用デジタル教科書実証事業」を活用し、その教育効果を検証していきます。





豊かな心の育成

自然体験や社会体験、ボランティア活動など各学校の実践を継続するとともに「考え議論する道徳」の授業を中心に、いのちを大切にする心や思いやりの心、いじめを許さない心を育む道徳教育の取組を支援していきます。また、望ましい生活習慣の確立に向け、小中学校の児童生徒の多くがスマートフォンを所持している現状を踏まえ「ケータイ・スマホ３つのルール」の周知徹底を図るとともにメディアとの接し方を主体的に考える取組を促していきます。

社会教育について

市民一人一人が主体的に学び、人と人とのつながりを深め、心豊かに暮らすことができる環境を目指し、各種事業や施策に取り組みます。

文化・スポーツの振興

関係団体と連携し、市民の文化活動への参加や芸術を鑑賞する機会の提供、各種スポーツ教室や大会の開催などの取組を推進するとともに、今年度は、パラリンピアン等による講演会や実技講習会などを開催します。

青少年の健全育成

学校・家庭・地域と連携した登下校時の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組むとともに、「こども 110 番スタディちゃんの家」の取組など、多くの目で子どもを見守る環境の整備に努めます。



2,924名の子どもたちで新年度スタート！！

４月６日（火）～８日（木）にかけ、市内全ての小中学校で入学式が開催されました。今年度の市内全体の入学生は、小学校は、前年度より 30 名減の 275 名・中学校は、26 名減の 324 名でした。在校生を合わせると市内全校の児童･生徒数は、小学校 1,892 名、中学校 1,032 名となり、合計 2,924 名で新年度をスタートしました。

本年度の各学校の児童生徒数

小学校名	児童数	前年比	中学校名	生徒数	前年比
鷲別小学校	２５３名	－27	鷲別中学校	２７６名	－16
若草小学校	２９５名	＋8	緑陽中学校	３８９名	＋12
富岸小学校	３６５名	－34	幌別中学校	１４４名	－15
青葉小学校	２４１名	－8	西陵中学校	１３９名	＋9
幌別小学校	２５５名	－6	登別中学校	８４名	＋7
幌別西小学校	２８７名	－16	合　　計	１,０３２名	－３
幌別東小学校	７５名	＋3	〈　５月１日　現在　〉		
登別小学校	１２１名	－13	小中学校合計	２,９２４名	－96
合　　計	１,８９２名	－93			



若草小学校の入学式



幌別中学校の入学式

第 38 回 登別市少年の主張大会

６月２日（水）登別中学校を会場に、市内５中学校と登別明日中等教育学校（前期課程）の計６校から選出された１２名の生徒が出場して、第３８回登別市少年の主張大会が開催される予定でしたが、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全道大会・胆振大会に準じて「ビデオ審査形式」で開催されました。

DVD に録画された各校の代表者１２名の発表を審査員が真剣に視聴し・審議されましたが、どの生徒の発表も、自らの体験を織り込みながら、課題意識をもった素晴らしい内容でした。

厳正な審査の結果、今年の最優秀賞には、『新しい自分に出会うために』を主題として取り上げ、自身の体験をもとに、自らの思いや考えを堂々と主張した、登別明日中等教育学校３回生の寺沢美柚さんが受賞しました。寺沢さんは、７月に開催される胆振地区大会に、登別市代表としてビデオによる審査会に出場します。

「審査結果」

最優秀賞	寺沢（てらさわ）　美柚（みゆ）	登別明日中等教育学校
優秀賞	石中（いしなか）　麗未（れみ）	登別市立西陵中学校
奨励賞	永田（ながた）　莉央（りお）	登別市立西陵中学校
特別賞	小沼（こぬま）さつき	登別市立緑陽中学校



最優秀賞　寺沢美柚（てらさわみゆ）さん

「いじめ・不登校等対策会議」

５月１２日（水）第１回目のいじめ・不登校等対策会議が、市内の小中学校生徒指導担当教諭が集まり開催されました。この会議は、いじめの未然防止と早期発見、早期対応をはじめとした生徒指導の諸問題、不登校に係る具体的な対策の研修等を実施し、指導・支援の方法について協議を深めるとともに、学校間の連携を図ることを目的に実施されています。今年度は、７回予定されていますが、今回は、各校のいじめ、不登校、生徒指導上の問題等について情報交流が行われ、後半に登別市教育委員会の生徒指導担当教諭縣宏光教諭より「いじめの未然防止、早期発見に私たちができることは、何か」という題で講話がありました。講話では、いじめの定義についてといじめの認知について詳しい説明があり全市をあげて「誰もが通いたくなる学校づくり」を目指すことを確認し合いました。

